

『地球人講座』 〈夢・探究心・思いやりを胸に〉



2 提供: JAXA/NASA/Bill Stafford



1

1.カタールのドーハ日本人学校で、講座に参加した子どもたち。2.若田光一宇宙飛行士。3.自身の書き初め「和」を手にする若田さん。4.船外活動(EVA)を行う若田さん。5.ISSから若田さんが撮影したカタールの夜景。6.クリスマスに記念撮影を行うISS第68次長期滞在クルー。 3~6.提供: JAXA/NASA

**若田光一宇宙飛行士
ISS長期滞在
ミッション**
 ≪ 詳しくはこちらから ≫

宇宙飛行士と聞いて、皆さまはどんなことを思い浮かべますか？ 国際宇宙ステーション（ISS）では、何を実験しているのでしょうか？ 今年2月、JAXA特別参与・宇宙飛行士（当時）の若田光一さんが、ヨーロッパと中東に暮らす子どもたちに向けてオンライン形式でのライブ授業を行いました。これは公益財団法人JAL財団がJALと共に、地球規模で考え行動できる人財の育成を目指し2003年から取り組んでいる『地球人講座』の一環です。さまざまな国と地域から集まる仲間と協力し、重要なミッションに当たる若田さんから、ISSでの興味深い活動事例を交えながら、「夢・探究心・思いやり」をテーマにたっぷりとお話いただきました。

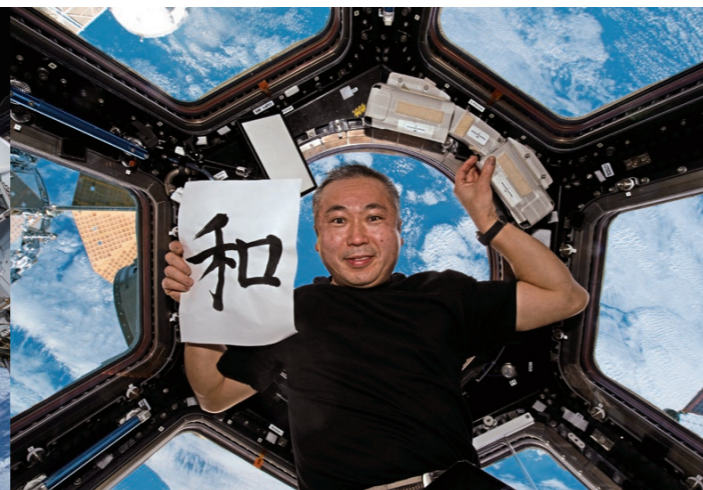
JAL整備士から宇宙飛行士へ

講義では、私たちが普段は知ることのできないISSでの実験や日常生活の様子を、貴重な動画や資料を用いて紹介。さらに、若田さんが日頃から大切にしているという3つの言葉「夢・探究心・思いやり」を軸に、将来の夢に向かってチャレンジする子どもたちへの思いも聞くことができました。空、そして宇宙への憧れからJALの整備士となった後に宇宙飛行士という

今回のテーマに該当する目標



4



3



6



5

夢をかなえた若田さん。「自分の夢が明確に見えていなくてもいい。今、情熱を持って取り組める事柄を大切に、失敗を恐れずチャレンジしてほしい」という若田さんの言葉に、たくさん子どもたちが勇気づけられたようです。また、遠い出来事のように思えた宇宙での実験が、地球上での商品開発やリサイクル技術の進歩につながっているという話を聞いて、宇宙飛行士の活躍を身近に感じるきっかけにもなりました。

ドーハの日本人学校とつながる

今回の講座には約800名の子どもたちから参加登録があり、当日オンラインでつなげた人数は参加者の家族も含めておよそ1800名。JALが支店を開設したばかりのカタール・ドーハでは、日本人学校の生徒たちが教室に集まって講演を視聴し、カメラを通じて若田さんとコミュニケーションを図りました。異文化の中で暮らす子どもたちは、多様な人種の集まりであるISSにおける相互の「思いやり」が、チームワークを構築する上で重要であるということに、強く共感したことでしょう。お互いの違いを尊重し助け合うことが、ミッションの成功にも、平和の実現にも欠かせないことなのだとあらためて気付かされました。

これからも、JAL財団では人々が互いに理解し協力し合える国際社会と未来に続く豊かさのため、地球規模で考え自ら行動できる「地球人」の育成につながるさまざまな事業を展開してまいります。



2015年9月、全国連加盟国(193カ国)により「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」が採択されました。2030年までに、貧困や気候変動、平和的社会などの17の目標を達成すべく、JALグループも社会の課題解決に取り組んでいきます。